

「通じる喜び」

来留主 優

今回のグアム派遣生は1年生5人に2年生2人、そして3年生の私一人。必然的に私はリーダーとなった。今まで何かのリーダーになることには全く積極的ではなかったが、誰も知りあいはいないと自分に言い聞かせてなりふり構わず、事前のオリエンテーションに臨んだ。せっかく選ばれたのだから、絶対に悔いのない体験にしようと思ったからだ。

何回かのオリエンテーションの中でステイ先に電話することになった。私はわくわくした気持ちでコールを聞いていた。し



かし電話口では聞き慣れない英語と自分の英語の足りなさに愕然としてしまった。出発目前にして大きな不安とショックを感じた。

成田空港で飛行機を待っている間とグアム空港に着いた時は、グアムに来たんだという感じがしなかった。しかし空港の外に出ると、照りつける日差しと真っ青な空が日本とは違う場所にいるんだと実感させてくれた。外で出迎えてくれたホストファミリーの Courtney とは最初の日には全く喋ることができなかった。その時点では私は、グアムの生徒たちや先生、お母さんたちが言っていることを聞きとることができず、返答がままならなかった。正直6日間も一緒に生活できるか不安になってしまった。家に案内され、シャワー室に行ってみてびっくりした。水しか出なかったのだ。私はどうなるんだ、と本気で心配しながらその日は眠った。

次の日は、Courtney 達が通う学校に行った。学校にいる間はびっくりすることがたくさんあった。1, 2時間目が終わると、少し長めの休憩時間があった。そして3, 4時間目、お昼ごはん、昼休み、ウェルカムパーティーとあっという間に学校生活は終わってしまった。クラスメイトが私に色々話しかけてくる内に、急に耳が慣れてスラスラと短い会話ができるように感じた。私が様々なジェスチャーを加えて喋っているとクラスメイトたちは一生懸命私の話を聞いてくれた。彼らもまた私に分かるように、分かりやすくゆっくり喋ってくれた。帰りのスクールバス待ちの間は、小さい子たちも私のことを見るや、「Hi!」と話しかけてくれた。なんていい子たちだろう!!と、私は嬉しくて胸がいっぱいになった。3日目にはビーチと洞窟に行った。そこでは突然柏の先生がいなくなるという状況になり、グアムの先生に「先生の代わりに Japanese Kids に日本語で伝えて!」といわれ、しどろもどろしながら聞き取れるところを漏らさず聞き日本語にした。4・5日と楽しい時間が流れるように過ぎていって、とうとう6日目、帰国する日になってしまった。空港で別れる時、急に今までのホストファミリーとの温かい愉快的日々を思い出して涙ぐんだ。異国から来た私を家族として受け入れてくれた事が本当に嬉しかった。言語は異なっても気持ちは伝わると体感できた。

最後に、一生の思い出になる体験をさせてくれた委員会のみなさんや私の両親、派遣に携わってくださった全ての人に感謝しています。ありがとうございました。